字校教育目標

組

目標

未来に向かって心豊かにたくましく生きるために

1 自 ら の生 き 方 を 創 りだ し 、よ り 広 く・よ り深 く 考 え 、課 題 解決 に 向 けて 粘り強く取り組む力をつけます。【知・開】

2 互 い の 違 い を 認 め 合 い 、思 い や り の 心を 持 ち 、自 他 の 生 命 と 人 権 を 大 切 にします。【徳・体】

3 あいさつを大切にし、社会への視野を広げ、地域や社会に貢献できるようにします。【公・開】

学校 概要 児童生徒数:

創立 76 周年 学校長 佐藤 典之 副校長 伊藤 正徳 2 学期制 一般学級: 15 個別支援学級: 4

|児童生徒数: 574 人 │主な関係校: 大正小学校・小雀小学校・東俣野小学校・千秀小学校

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈言語能力〉 〈問題発見·解決能力〉 〈情報活用能力〉 〈公共心と社会参画力)

大正中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
大正中学校 大正小学校 小雀小学校 東俣野小学校	課題解決に向けて、学習に向かう姿勢を身につけ、粘り強く学ぶ子ども 〇「主体的・対話的でより深い学び」を目指した合同授業研究・協議会(年2回) 〇児童・生徒一人ひとりの課題や教育的ニーズをきめ細かく捉え、ニーズに応じた 指導・支援を行うための合同研修会、情報交換会の開催。 〇地域の人的・物的資源を活用し、社会教育との連携を図り、子ども像を社会と共 有・連携しながら実現させる。

- ①より良い学習習慣を身に付け、魅力ある分かりやすい授業、主体的な課題解決学習を通して、学力向上を目指します。
- ②特別支援教育の視点を中心に据え、誰もが安心して学習活動を受けることが出来る環境を構築します。
- ③社会性の育成を図り、生徒の自己有用感、自己存在感を高めると共に、自治活動を推進します。
- ④生徒との人間関係を基に、心の拠りどころとなる居場所づくりと生徒に寄り添った粘り強い指導を推進します。
- ⑤地域の教育力を生かすと共に、交流やボランティア活動を通して、地域や社会に貢献できる生徒を育成します。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	・魅力ある分かりやすい授業や主体的な課題解決学習を展開して、生徒によりよい学習習慣や、粘り強く学ぶ姿勢を身に付けさせる。・小中合同の授業研究を推進し、共通の指導観の確立や学びの連続性を高めるとともに、子供が主体的に学習に取り組む授業を目指す。
担当	学習指導部	
徳	豊かな心	 「考え、議論する道徳授業の研究」を推進する。 スマイルプロジェクトを中心に、生徒自ら、いじめのない学校、明るい学校づくりを進める。 「大中生の心を育てる活動」を継続させると共に、地域との交流やボランティア活動を活発化させる。
担当	人権、道徳、福祉	
体	健やかな体	・互いの違いを認め合い自他の生命と人権を思いやり、これらを含めた視点で保健教育の系統化を進め、実 践する。・健康に関する啓発活動、校内美化活動、さわやか運動を通して、生徒の健康や美化意識を高める。 ・1校1実践運動を推進していく。
担当	保健体育科、保健指導部	「大成建動を推進してい。
公 開	地域学校協働活 動	・学校家庭地域協働事業等を通して、地域・関係機関と生徒、保護者、職員との連携をより密なものとする。 ・地域活動への参加や地域ボランティアを推進し、生徒の自己有用感、自己存在感を得る活動を工夫して実践 する。
担当	生徒指導部	9 තිං
	いじめへの対応	・道徳をはじめとし教科や特別活動との横断的な学習や活動を通して開発的かつ予防的ないじめ防止策の充 実を図る。・いじめ生活アンケートや教育相談を通して、生徒の心身の変化や悩みに気づき、心身の苦痛を感 じている生徒の気持ちに寄り添い、組織的かつ迅速な対応を講じる。
担当	いじめ防止対策委員会	
組	人材育成・ 織運営(働き方)	・メンターチーム等の学び合いの機会を大切にし年代や経験を超えて切磋琢磨する研修を時間や場所にとら われずに設定し、教師力向上に努める。・校務分掌を等を効果的に進めるために、一人で抱え込まず多様な経 験や視点を尊重し様々な課題を「チーム」で取り組む。
担当	教務部	
	上徒理解▪支援	・生活アンケートや教育相談等を通して生徒理解に努め、学校内外問わず生徒の活動を支援したり、生徒のみに寄り添ったりするなど、実践的な生徒支援を行う。・他校種・他機関や保護者・地域との連携を深め、情報を共有し、SCやSSWを活用して生徒理解に努め、充実した生徒支援を行う。
担当	生徒指導部	
	持別支援教育	・生徒実態調査の活用、個別の支援計画の作成等を通して、生活支援と学習支援を行う。 ・ステージ1の通常授業でユニバーサルデザイン化、焦点化を推進する。ステージ2の少人数での指導などで 支援方法を改善する。ステージ3の学習支援教室で効果的な運営を行う。
担当	特別支援教育推進委員会	文版力法と以告する。スケーク500年自文版教主と効果的な建占と行う。
担当		
担当		